

4月6日、8月3日について8月30日に調査。干潮が10:34の14cm、満月が8月31日であった。

9時過ぎ頃から浜に降りた。今回も南風が強く、海面が上がっているせいか、沖の仕切り網近くには行けなかった。

調査は干潟の縦横20cmの区画のなかをシャベルで10cm程度掘り返して貝類を探すもの。これまでと同様足洗い場の少し



西渚 10時20分頃

東から始めた。だんだん沖の方に移動していった。どこも貝類は見当たらなかった。途中、泥で足を取られるところがけっこう増えてきているのを感じた。ヘドロの堆積と思われるが、他で出会ったこ



岸寄りのところ

とがない。有明海が連想される。波はけっこう押し寄せるところで、微細粒子が沈殿できる深場と違い不思議である。富栄養化が一番進んでいる湾奥なのでこうなのだろうか。渚の西半分は波打ち際にヘドロ地帯があって、足を取られて普通の装備で入れない。

次回からは泥場の少ない水洗い場の西から調査を始める方が良さそうである。

カニの穴はけっこうあるが、生物相は貧弱な状態が続いている。

途中、コメツキガニかチゴガニの米粒くらいの砂の粒が前回より結構増えているところがあった。また、4cmくらいのカニの死体を所々で見た。

これまでと同様、貝類が殆どいないことを確認して、沖の方を広範囲に熊手で探した。

取れたのはまず4cmくらいのシオフキ。最近、稚貝も見ることがなかったので驚いた。また6.1cmのハマグリ1個。7cmくらいの深さにいた。また、少し浜の方で飛び出していた6cmのハマグリ1個。二つとも4月に取れたサイズより大きい。今回、浜に入りたての時、出会った人が岸寄りのところで見つけた飛び出していたハマグリも同じような大きさであった。



砂粒の箇所が増加



シオフキ

ハマグリは昨年の7、8月には小さいが6個取れたので期待していたが、今年の4月でも2個、8/3で1個、今回2個と少ない。



沖の方にいたハマグリ 6.1cm



ハサミを上げて威嚇するガザミ。夾まれて痛かったそう

昨年まで、数は少ないが存在していたのに、今年
は新たな定着がない一方、コロナ開けで磯遊びに来る人が増え減少しているようである。
帰り際、遊びに来ていた若い人が捕まえた6cmくらいのガザミの写真を撮らせてもらった。